

1
月
号

いっしん

令和5年(2023年)

第455号

発行：金光教加治木教会 〒899-5213 鹿児島県始良市

加治木町朝日町130発行責任者：矢野文枝 TEL/FAX 0995-62-2895

Mアドレス hittobe.konkaji@gmail.com (HP)http://kajikikon.konjiki.jp/《HPの「いっしん」はカラーで見れます》

甘木親教会
初代教会長
安武松太郎師御款

み教えを
かがみと
己が姿をば
映してぞ見む
日毎夜毎に

教祖様140年／立教164年／教団独立123年／小倉教会布教138年／甘木親教会布教119年／
加治木教会布教72年（令和5年2月26日、矢野政美大人25年祭・サダ子大刀自10年祭）



新玉の年を迎へぬ畏くも
神はいかにかおぼしめすらむ

写真・大重為映氏

令和五年の

新春を迎え

させていただきます

(教会長)

新年明けましておめでとうござい
ます。

共々に令和五年の新春を迎えさせて
いただきます。有り難いことに存じま
す。

お道では本年、教祖百四十年のお年
柄を迎えさせていただき、甘木親教会
は布教百十九年を迎えられ、加治木教
会では二月に前教会長 矢野政美大人
二十五年祭・矢野サダ子大刀自の十年
祭をお仕えさせていただきます。

まだまだコロナ禍の収まりきれない
中ではありますが、皆さんご承知の通
り社会の経済活動を止めたままにして
いては国家社会が持続できて行きませ
ん。

それと同様に、眼には見えませんが、
私共は信心の稽古を止めたままにして
いては、このお道の信心のおかげで助
けられてきたお互いの、自身も家庭も
ひいては関わりのある社会が、持続で

(次ページに続く)

新春をお迎えさせていただいて(教会長)…P1～3 矢野政美大人 遺稿…P4
『子どもが育つ魔法の言葉』より…P6 お知らせ…P7 教会行事…P8

きて行くとは言えないのではないでしょうが。

「ロシア禍だけでなく、ロシアのウクライナ侵攻などにより資源や食料の貿易戦争というところで、世界的に社会経済がひっ迫化してきた、今のような時こそ「国家再建」という、戦後間もなく三代金光様がお書き下げになられた内容を再び頂き直して、真の「信心生活」「生活信心」に励ませていただいて行くべきでありましょう。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

◆◆◆◆◆
おんたちば

親神様の御立場に

立った信心を生活の中で

「信心生活」「生活信心」とも言われる「信心の稽古」は、どのようなことに努めて行けばよいのでしょうか。

加治木教会には、前教会長 矢野政美大人のご母堂矢野クラ刀自が、甘木親教会初代教会長 安武松太郎大人(初代親先生)から頂かれた「親神様の御立場に立った信心」というものがあります。

矢野クラ刀自入信十年目の九死一生の大患に際しての、初代親先生の御取次の中で、**今まで何を信心してきたか、一心一心と言つても、口で言うようにたやすいものではない。**……これからが本当の一心とい

うものじゃ。」と諭され、それからというものの「本当の一心」とは、天地の親神様のご恩を知って誠心誠意報い奉って行くというものであることを確信され、信心生活にお取り組みになられてあります。(詳細は『私のいただく安武松太郎師』(矢野政美著第六章に掲載)この九死一生の大患の折には、医師も匙を投げられたところから、一時は危篤に陥られたのですが快復のおかげを蒙られ、六十九日目に御礼参拝のおかげを蒙られてあります。

それからというものの、信心が大きく展開されたことを次のように伝えられています。

振り返ってみると、今日までの信心は、ただ一身一家の上におかげ蒙らせていただきたいと一心からのものであった。いわば自己中心で、親神

様の御立場というようなことはいささかも考えていなかった。これは申し訳ない相済まないことであった。これからは、今日死んだと思つて、少しでも親神様に喜んでいただくような自分になしていただく。神様に喜んでいただくということは、まず御取次くださる親先生に喜んでいただくことである」と、心に強く誓わせていただいたのである。(『私のいただく安武松太郎師』より)

このように「親神様の御立場に立った信心」にすっかり変わられ、信心が進んで行かれました。

これまで、経済的な苦難や病難が打ち続く、村内でも貧苦のどん底にあったという家が、矢野クラ刀自の改まられた信心のおかげで、信心の稽古・辛抱に真剣に取り組まれ、十年も経つうちには、多くの田畑を買い戻し家屋までも建て直すことができ、人も羨むような家へとおかげを蒙って行かれました。

さらに信心を進められ、子供たちの中から神様の直接の御用にお役立ていただきたいとの願いもおかげを蒙られ

るのでした。

◇◇◇◇◇
これから進めるべき

信心生活

「親神様の御立場に立った信心」と
言います。

そこに向かうために、加治木教会の
「改まりの願い」として、唱えさせて
いただいておりますように、

「改まりの願い」
自己中心の信心から

親神様の御立場に立った信心に、
親神様を使う信心から

親神様にお喜びいただき
「安心いただく信心に、
おかげを信じる信心から

親神様・「神慮を信じる信心に、
改まらせていただく」。

このようなことでありますが、
「安武松太郎師 教話集 第十集」に
は、

われわれは、生きているのでは

ない生かされているのである。衣食住、万物を親神様から恵まれ、そうして親神様の偉大なる御徳より生かされているのである。その生かされていることを感謝し奉り、何とかしてそのご恩に報いまつりたいという心をもって親神様にお仕えするということが、一番大切であります。

とありますが、この「生かされている」という内容を心に頂くためには、まず「お礼を申す稽古」でありましよう。

四代金光様も「お礼が土台」と、いつも「すべてに礼を申す」ことをみ教え続けられました。

甘木親教会 二代親先生も、常日頃「親神様から生かされて生きていく」「一息の呼吸も半歩の歩みもおかげでできている」ということを口癖のように仰せられてありました。

今の私どもは、日常生活の中で、当たり前のように頂いております「命」「目覚め」「食事」「排便排尿」「衣食住万物」などなどに対してお礼を申すように心が

け、「お礼を申す稽古」を深め進めて行きたいものです。

そうした「お礼を申す稽古」により、どんな経済的な苦難や病難が打ち続くようなことがあっても、常に親神様のお恵みが私自身に注がれ、その中には暖かい親心と愛情がこもっており、神様の最高・最善・最大のおかげをそれぞれの信心の受け物の、ギリギリのところまで頂かせて下さってあることがわかり、大きな悩みに遭遇することがあっても、今も天地の親神様に恵まれ守られ祈られてあるんだ、ということがハッキリとしてきて、暗闇で、光明を見出すことができ、道を見失わずに人生の航路を推し進めて行くことができるものでありましよう。

そうすれば、心配を神様に預けることもでき、心配の虜（とりこ）になることもなく、不安やストレスに心を悩ませることからも遠ざかることになって行くことになりましよう。

生活の中で「お礼を申す稽古」を行住坐臥・日常茶飯事の中でできて行くよう、また、それが身に付くように努めさせていただいて行きましよう。

前加治木教会長

矢野政美大人

遺稿

矢野政美大人二十五年祭・矢野サタ子大
刀自十年祭を来月、二月二十六日にお仕え
させて頂いたにあたり、矢野政美大人の
遺稿を掲載し、改めて読み直し、信心姿勢
を頂き直し、お慰びさせて頂いたところです
るものであります。

すべてを新たなこととして

昭和四十七年「いっしん」一月号より



矢野政美大人

とあなたにも明けましておめでとう
ございます。

すがすがしい気持ちで新年をお迎
えのことと存じます。

本年は本教におきましては、立教
百十三年の御年柄であります。

また、当教会では布教二十一年目
の新春を迎えさせて頂いたたいわけ
であります。

昨年の暮れにはあのように共々に
真心を込めさせて頂いて、教祖
大祭に併せて布教二十年の記念大祭
をお仕えさせて頂きました。が、
本年はそのことを起点とさせて頂いた
できまして、大きな信心の展開をお
かけ蒙らせていただきたいと願わせ
ていただいております。

過ぐる昭和二十四年に、御三代金
光様が「全教一新して全教一家の実
があがるように」と仰せになり、た
だ今の「御取次成就信心生活運動」
が起こされたのであります。私は
この一新ということがとても大切な
ことに思えてなりません。

「初心に復かえる」という言葉が
ありますが、いつもスタートに復る
心こそ肝要なことと思わせていただ
きます。

ものごとには、馴れるということ
の大切な場合と、また、馴れてはい
けないという二つの面があると思わ
れます。

仕事に馴れるとか、機械に馴れる

ということとは大事ですが、神様のお
かけに馴れて、生かされていること
すら当たり前のように感じられるよ
うになったら大変です。

必ず行き詰まってしまいます。

甘木親教会御先代は「信心は過去
の精算」とみ教え下さってあります
が、神様のみ恵があまりに大きく深
く、とても精算のできる信心はでき
ておりませんが、これまでの過去の
おかげをかみしめつつ現在を心から
喜ばせていただくと共に、いつも始
めに立ち復って、第一歩から信心の
稽古に励ませていただきたいと願わ
れてなりません。

何事も始めのことを思いますと、
不平不足は出てまいります。

いつも謙虚な気持ち・信心を求め
てやまぬ心、そこから信心が進んで
まいります。

本年こそすべてのことを新たなこ
ととして、第一歩から進ませていた
だきましよう。

なべてをば新たなことと信心の

みかけを受けてお役に立たむ

み教えを鏡と己が姿をば
映してぞ見む日毎夜毎に

〔甘木教会初代教会長
安武松太郎師御歌〕

〔今月号表紙の句〕

私たちは、毎日鏡を見て身だしな
みを整えます。

そのように私どもの心の在り方を、
教祖様のみ教えを毎日心に頂いて
「自分の心は神様の申し召しに添う
ようになっているだろうか」と、心
を整えていくことを勧められたみ歌
です。

数多い教祖様のみ教えの中に、
どんな物でも、よい物は、人に
融通してやれば人が喜ぶ。それで
徳を受ける。人にやるのでも、自
分によい物を残しておくようなこ
とではいけない。人に物をやる時
には、たとえ前かけ一枚やるので
も、よい方を人にやり、悪い方を
自分が使うようにせよ。

〔金光教教典〕大西 秀の伝え
たとえ人にたたかかれても、けっ

して人をたたくのではないぞ。人
に難儀をさすな。よい心にならせ
てもらえばありがたいと思ひ、す
れ違った人でも拜んでやれ。でき
れば、人を助ければよい。

〔金光教教典〕大西 秀の伝え

とありますが、このみ教えのよう
な心は、世の中の変わりやすい見方
考え方に流されてしまっていると見
失いがちになります。

ともすると優勝劣敗・弱肉強食的
な実績主義がまかりとおることの方
が真実なことにさえ思ふ人もありま
す。

人のことを考えることや祈ること
が見過ごされてしまう風潮に、いつ
の間にか陥ってしまわないよう心が
けたいものです。

大西秀さんが伝えられた、このみ
教えだけでも実践することは、毎日
相当心がけていなければなかなか身
に付くことではありません。



金光教加治木教会祈願祭にて
 少年少女会連合本部派遣講師による

育成懇願会

7月9日(日)

11:00～祈願祭ご祭典
 12:00～講話
 (家庭教育と青少年育成について)

講師
**少年少女会連合本部
 派遣講師**

会場：金光教加治木教会

加治木教会
 前日準備御用

二月二十六日(日)

午前
 十一時より

報徳祭に引き続き

矢野政美大人二十五年祭 矢野サダ子大刀自十年祭 執行

ご祭主 甘木親教会長
 ご教話 安武道 義親先生

金光教加治木教会

『子どもが育つ』

魔法の言葉』より

米国の作家ドロシー・ロー・ノルト(一九二四年一月十二日～二〇〇五年十一月六日)という女性が書かれた書籍『子どもが育つ魔法の言葉』の中から、次のように、ほんの少しひろいあげてみても、とても考えさせられる内容ばかりです。

- ★けなされて育つと、子どもは、人をけなすようになる
- ★叱りつけてばかりいると、子どもは「自分は悪い子なんだ」と思ってしまう
- ★励ましてあげれば、子どもは、自信を持つようになる
- ★誉めてあげれば、子どもは、明るい子に育つ
- ★愛してあげれば、子どもは、人を愛することを学ぶ
- ★認めてあげれば、子どもは、自分が好きになる

金光教の教祖様は、まだまだ世の中が封建的で、世情も不安定な江戸末期から明治維新の真っ最中の時代でありながら、

子供を叱り叱り育てな。叱り叱り育てると、大きくなって道楽になるぞ。また、恐れさし恐れさし育てると臆病になるぞ。

(「金光教教典」市村光五郎の伝え)

子の頭をはるより、自分の頭をはれば、すぐおかげになるぞ。

(「金光教教典」島村八太郎の伝え)

と教えてあります。
 (こと)、子どもの教育については、深い祈りとご思慮を感じることができません。



感 詠 (教会長)

暖かき師走となりてしのぎよし
 されど問題温暖化なり
 夏おわるころに蒔きたる種育ち
 彩るビオラ花付けだしぬ
 種を蒔き種々の花々咲くことを
 待ちたる冬にビオラひらけり
 寒き朝多く着込みて玄関を
 開ければ外気流れ込み入る
 星空は凍てつく朝も輝きぬ
 寒暑すべてを称える如く
 セーターを重ねて着れば暖かき
 編みたる人の思い偲ばれ
 ウクライナ戦場となり衣食住
 困りし人の助かり願ひ
 雪の降る季節を迎えまた降らぬ
 薩摩の国の海辺の町よ
 師の君の立ち日の朝は雪が降り
 厳しき一生思い偲ばれ

あしあと

加治木教会行事記録

12月

- 1 (木) 報徳月例祭 10時半
- 3 (土) 甘木親教会御大祭
- 7 (水) 連布教協議会(加治木) 10時半
- 9 (金) 清掃御用 10時
- 10 (土) 生神堂 月例祭 10時半
- 11 (日) 御本部布教功労者報徳祭(遥拝)
- 17 (土) 18 (日) 信徒部教区委員会(日田教会)
- 21 (水) 清掃御用 10時
- 22 (木) 月例祭・共励会 13時半
- 23 (金) 安武文雄大人立日御祈念 10時
- 29 (木) 清掃御用 10時
- 30 (金) 越年祭 13時半



ご霊神様の

お五日

一月



- 中村宗吉 之霊神(4日) 昭和61年
 - 松田常衛門之霊神(4日) 大正9年
 - 中村正義 之霊神(5日) 昭和21年
 - 内村ハル工 之霊神(6日) 昭和59年
 - 有馬幸子 之霊神(9日) 平成16年
 - 西本五男 之霊神(11日) 平成15年
 - 濱口マツ工 之霊神(11日) 平成27年
 - 濱口勝次 之霊神(11日) 昭和27年
 - 前田正蔵 之霊神(13日) 昭和39年
 - 瀬戸セミ 之霊神(14日) 昭和56年
 - 小屋敷勝 之霊神(14日) 平成1年
 - 信國鈴子 之霊神(20日) 平成5年
 - 中島ふさ 之霊神(20日) 平成16年
 - 福山瑞枝 之霊神(20日) 平成21年
 - 瀬戸俊子 之霊神(23日) 平成27年
 - 柳園義男 之霊神(24日) 昭和8年
 - 本中野イセマツ 之霊神(25日) 昭和59年
 - 岡山エク 之霊神(25日) 平成20年
 - 桐野仲助 之霊神(27日) 昭和21年
 - 瀬尾 清 之霊神(27日) 昭和41年
- 〔先祖のご霊神様の、現世・幽界(かくりよ)でのお働きあつての今日の私たちであります。〕
 立日の月には、故人を偲び、玉串を奉てんしてお礼を申し上げます。教会では、十日の月例祭で、霊前での玉串の奉てんを準備しています。

一月三日(火)

甘木親教会年頭参拝

一月八日(日)十時半より

加治木教会

少年少女会

鏡開き・七草

※おかがみ餅を焼いてのぜんざいと七草たこ焼きを作ります!

一月十日(火)十時半より

加治木教会 月例祭に併せて

成人感謝祭 奉仕

※成人者、玉串奉奠・記念品授与。

一月二十九日(日)十三時より

鹿児島地方教会連合会

定期総会

※一教会、教師一名、信徒一名出席にて開催。

教会行事

令和五年

1月

1 (祝) ●元日祭 正午

※光風館予約日 10時

3 (火) 甘木親教会年頭参拝

8 (日) 清掃御用 10時

9 (祝) ★少年少女会「鏡開き」10時半

10 (火) ●月例祭(生神金光大神様) 10時半

併せて 成人感謝祭

21 (土) 清掃御用 10時

22 (日) ●月例祭・共励会 13時半

29 (日) 連合会定期総会(鹿児島教会にて) 10時

31 (火) 清掃御用 10時

《未定行事》青年会・若婦人会

2月

1 (水) ●報徳月例祭 10時半

4 (土) 甘木親教会初代立日

9 (木) 清掃御用 10時

10 (金) ●月例祭(祭典のみ) 10時半

17 (金) ●甘木親教会 報徳祭 11時

18 (土) 甘木親教会「同釜会」

21 (火) 清掃御用 10時

22 (水) ●月例祭・共励会 13時半

25 (土) 準備御用 10時

26 (日) ●加治木教会報徳祭

28 (火) 清掃御用 10時

一月二十五日〜二月八日

報徳祭・式年祭 奉迎

寒中一斉信行

ご祈念・研修 午前五時十五分・午前十時

「改まりの願い」(加治木教会)

自己中心の信心から

親神様の御立場に立った信心に、

親神様を使う信心から

親神様にお喜びいただき

ご安心いただく信心に、

おかげを信じる信心から

親神様へご神慮を信じる信心に、

改まらせていただく。